

『信徒の王職』(大人の教会学校 2019 年 5 月)

キリストは死に至るまで従う者となり、このため、父から高く上げられ(フィリピ 2・8~9 参照)、神の国の栄光に入った。そして、神がすべてとなるために、キリストが自身と全被造物とを父に従わせるに至るまで、すべてのものはキリストに服従させられる(1 コリント 15・27~28 参照)。キリストはこの権能を弟子たちに授けた。それは、彼らもその王のもつ自由を与えられ、自己放棄と聖なる生活をもって自分の中にある罪の支配に打ち勝ち(ローマ 6・12 参照)、さらに人々の中においてもキリストに奉仕しつつ、謙虚と忍耐とによって自分の兄弟たちをその王のもとへ導くためである。そして、この王にとって仕えることが支配することである。実際、主は自分の国を信徒を通して広めようと欲している。主の国は「真理と生命の国、聖性と恩恵の国、正義と愛と平和の国」であり、そこでは被造物そのものが腐敗への隷属から解放され、神の子らの栄光に輝く自由にあずかる(ローマ 8・21 参照)。実に偉大な約束、偉大な命令が、弟子たちに与えられている。すなわち「いっさいはあなたがたのもの、あなたがたはキリストのもの、キリストは神のものである」(1 コリント 3・23)。

したがって信者は、すべての被造物のもつ深遠な本性と価値、神の賛美というその究極目的を認め、また世俗的活動によっても互いにより聖なる生活を目指して助け合わなければならない。それは、世がキリストの精神に貫かれ、正義と愛と平和のうちに、より効果的にその目的を達成するようになるためである。この任務をすべてにわたって果たすうえで、信徒は主要な地位を占めている。信徒は、世俗のことがらに関する自分の才能と、キリストに恵みによって内面的に高められた自分の活動とをもって、被造物が創造主の計画と神のことばの照らしに従って、人間の労働、技術、文化によってすべての人の益のために開発され、より正しく人々に分配され、それぞれのあり方で、人間的かつキリスト教的自由の中に、全体の進歩に役立つものとなるよう大いに努力しなければならない。こうしてキリストは、教会の成員を通して、人間社会全体をその救いの光をもってますます照らしていく。

さらに信徒は、世の中に人を罪に誘うような制度や生活条件があれば、それを健全なものにし、それらのすべてが正義の規範にそうものとなり、また諸徳の実践を妨げることなく、むしろ助けとなるようにしなければならない。そうする

ことによって、彼らは文化と人間の諸活動に道徳的価値を与えることができる。同時に、そのようにして、世という畑は神のことばの種を受け入れるためによりよく準備され、また教会の門がより広く開かれて平和の知らせが世の中に行き渡るようになる。

第二バチカン公会議 「教会憲章」 36